

平成 29 年 2 月 4 日 (土) に 第 6 回 佐鳴湖交流会を開催しました

共催：佐鳴湖地域協議会、静岡大学アメニティ佐鳴湖プロジェクト

佐鳴湖交流会は、佐鳴湖で活動する各団体の交流を図り、各団体の取組に係る情報発信の場や、佐鳴湖の現状や将来について自由に語り合う場を設けることで、市民活動の輪を広げるとともに、佐鳴湖への取組の機運を盛り上げ、市民自らの手で良好な水辺空間の形成を図ることを目的として開催しています。第 6 回は、講演会、発表会、意見交換会、ポスター発表を行いました。

講演会

手賀沼の水環境

千葉工業大学 先進工学部教授 村上和仁氏

【講演要旨】千葉県にある手賀沼は、利根川の水を引き入れ、湖水を押し流す手法を用いて、水質を浄化し、2000 年にワースト 1 を脱却しました。アオコが発生しなくなり、真夏は水が澄んで、湖底に光が届き、生態系ピラミッドが回復したと言われています。しかし、手賀沼の生態系は大きく変化しました。例えば、植物プランクトンは一年中珪藻類が多く、季節変化がなくなりました。また、生態系が利根川化しているという報告もあります。一方、近年、手賀沼はワースト 5 に再びランクインするようになりました。つまり、強制的に水を入れ替えただけで、根本的なところが解決していないように思います。解決のためには、生態系をより詳しく知ることが必要です。DNA 分析やマイクロゾムといった先進技術を用いて、データベース化や環境評価を行うことが重要です。



発表会

5 団体が、研究・調査成果の発表や、活動内容の発表を行いました。

1 佐鳴湖に関する研究



浜松大平台高校 自然科学系列
川原聖海氏

流入河川のリン酸態リン、硝酸態窒素を測定しました。濃度が高い地点や時間帯から、工場排水との関係が考えられました。これからも調べていきたいと思います。

2 佐鳴湖の魚は減っているのか



静岡大学
戸田三津夫氏

佐鳴湖では、累計 92 種類の魚の生息が確認されていますが、2016 年 7 月の調査では、驚くほど魚が捕れませんでした。非常に危機感を持っています。

3 タイワンリスの分布拡散とその要因



佐鳴湖環境調査会
藤森文臣氏

1970 年代に野生化が始まり、常緑広葉樹林を伝って、現在は浜松医大、神久呂、浜松西高あたりまで生息しています。佐鳴湖では 45 個の巣を確認しています。

4 食べられる里山づくり



トランジションタウン浜松
大村 淳氏

食べられる植物による森、フォレストガーデンを作る活動をしています。自然の力を利用した化学肥料や農薬を使わない農業は佐鳴湖浄化にも役立ちます。

5 コドモランドプロジェクト



コミュニケーションショップ
コドモランドプロジェクトチーム

芝生の公園になる計画の空き地を、私達一人ひとりが自分の責任で遊べる遊具のある公園にすることを目指しています。東京や愛知のプレイパークを見に行きました。

意見交換会

講演者や発表者に対する質疑や、自由な意見交換を行いました。



ポスター発表

10 名が、研究・調査成果、活動内容についてポスターを展示し、自由に関覧、意見交換を行いました。



今年の佐鳴湖交流会は、小学生や高校生にも発表していただき、終了後のアンケートでは、「今回初めての参加でしたが、小学生、高校生から、大人まで幅広い層での発表があってよかった。」「各団体の発表それぞれが興味深く、おもしろかった。」「現状も含めて勉強になりました。住みよい佐鳴湖にする為に努力致します。」「佐鳴湖の自然、生物に興味があり参加しました。今後は何か佐鳴湖に関する活動に参加できたらと思っています。」といった感想をいただきました。